

ブドウの房づくり・袋かけ

～果樹シリーズ⑦～

「果樹」の授業では、本校ブドウ園（5a）で、黒色大粒系の品種「藤稔」（ふじみのり）を栽培しています。「果樹」の授業では、4月の萌芽以降、新梢管理として芽かきや摘心、誘引を終えました。

先日より房づくり（摘房・整房・摘粒）を行っています。具体的には、岐肩（副穂）と上段5段程度を切り、下端を軽く摘みます。こうすることで逆三角形の形の整った房をつくり、大きさの揃った果実を生産することができます。また、弱い結果枝の小さい房や、小さく、病虫害の被害のある果粒を取り除きます。

並行して、外観を美しくするため、1房ごとに丁寧に袋かけもしています。

昨年は糖度も高く、作柄が非常に良かったため、今年も期待しながら栽培しています。

